中学２年　国語科　教材別テスト①　「見えないだけ」　模範解答・解説

教材別リメイク版　中学２年　国語

【このテストの使い方】

詩の本文は載せていません。**教科書『国語２』（光村図書）の「見えないだけ」（牟礼慶子）のページを開いたまま**解答します。この詩はとても短いので、**一語一語の働き**と**連ごとの組み立て**をていねいに確かめることが学習の中心になります。字句を書き抜かせる問題は作らず、**選択式**と「**～という感じ。**」「**～ということ。**」**の形の記述**で読み取りを確かめる構成にしています。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問）	１点×20＝ 20点
	二	語句の知識（対義語・慣用句・語の意味・熟語の組み立て）	２点×７＝ 14点
	三	詩の表現技法の用語（直喩・隠喩・擬人法・反復・倒置・体言止め・連・口語自由詩）	２点×８＝ 16点
思考・判断・ 表現 50点	四	「見えないだけ」の読解	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

①　詩の表現技法を表す**用語**（直喩・隠喩・擬人法・反復・倒置・体言止め・連・口語自由詩）を正しく書けるか。

②　**対になる二つの行を並べる組み立て（対句）**と、同じ語の**くり返し（反復）**に気づけるか。

③　**擬人法**によって、まだ見えない世界が「生きて存在している」ものとして描かれていることを読み取れるか。

④　話し手の視点が、身近な場所から**空・海・その向こう・未来**へと外へ広がっていく構成をつかめるか。

⑤　題名の「**だけ**」と、確信を示す言い方が生み出す**希望の調子**をとらえ、主題を自分の言葉でまとめられるか。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	さんみゃく	⑪	希望
②	ふんいき	⑫	信頼
③	かく（れる）	⑬	宇宙
④	たし（かな）	⑭	季節
⑤	わ（く）	⑮	地平線
⑥	きざ（し）	⑯	暖かい
⑦	つばさ	⑰	輝く
⑧	かなた	⑱	鮮やかな
⑨	かきね	⑲	沈む
⑩	にじ	⑳	柔らかい

小計　20点

【注意したい字】

②「雰囲気」は「ふいんき」と読む誤りが非常に多い。「**ふんいき**」が正しい。③④⑤⑥は送りがなまで必要（「隠れる」「確かな」「湧く」「兆し」）。⑥「兆し」は「ちょうし」と読まない。⑧「彼方」は熟字訓で「かなた」。⑫「信頼」の「頼」は右が「頁」。「願」と混同しない。⑮「地平線」は三字とも漢字で書く。⑯〜⑳はすべて**送りがな**まで書くこと。⑯「暖かい」は気温・空気に使う。心や料理には「温かい」。⑰「輝く」は「光く」などと書かない。⑱「鮮やかな」の送りがなは「やかな」。⑳「柔らかい」は「軟らかい」も可だが、風や光には「柔」を使う。

二　語句の知識　（２点×７＝14点）

番号	解答	解説
(1)	**理想**	現実 ⇔ 理想。「空想」「夢想」は対義語ではないので不可。
(2)	**過去**	未来 ⇔ 過去。「現在」は間に位置する語なので対義語にならない。
(3)	**イ**	「胸をふくらませる」＝期待や希望で心をいっぱいにする。この詩全体の調子にも通じる慣用句。
(4)	**ア**	「息をのむ」＝おどろきや感動で、はっとして一瞬息を止める。「息が切れる」とは別の慣用句。
(5)	**ア**	「かなた（彼方）」＝遠くはなれた向こうのほう。「こなた」が「こちら」。
(6)	**ア**	「兆し」＝これから何かが起こりそうな様子、前ぶれ。「きざし」と読む。
(7)	**イ**	「道路」＝「道」＋「路」で**似た意味**の漢字の組み合わせ。「永久」も「永い」＋「久しい」で似た意味。ア高低は反対の意味、ウ読書は「書を読む」で目的語の関係、エ国立は「国が立てる」で主述の関係。

小計　14点

三　詩の表現技法の用語　（２点×８＝16点）

番号	解答	解説（覚え方）
(1)	**直喩**	「明喩」も可。「**ようだ・ような・みたいだ**」**が見えている**たとえ。「直接」示すから直喩。
(2)	**隠喩**	「暗喩」も可。たとえの印が**隠れている**。「〜は〜だ」と言い切る形が多い。
(3)	**擬人法**	人でないものを人のようにあつかう。「風がささやく」「海が眠る」など。**広い意味では隠喩の一種**。
(4)	**反復（法）**	「くり返し」も可。調子を整え、意味を強める。この詩でもくり返しが大きな働きをしている。
(5)	**倒置（法）**	ふつうの語順をひっくり返す。述語が前に出て、感動や強調が生まれる。

(6)	**体言止め**	行や文の終わりを名詞（体言）で止める。言い切らないことで余韻が残る。
(7)	**連**	「段落」ではなく「**連**」。詩では一行空けて区切る。
(8)	**口語自由詩**	「口語」＝現代の話し言葉、「自由詩」＝音数・行数の決まりがない。「見えないだけ」もこの形式。「文語定型詩」との区別を確認しておくこと。

小計　16点　／　知識・技能　合計　50点

【表現技法を見分けるコツ】

①「**ようだ**」**があるか**を最初に見る（あれば直喩、なければ隠喩）。② たとえられている側が**人の動作**をしていれば擬人法。③ **同じ形の行が並んでいれば対句、同じ語が何度も出てくれば反復**。この二つは同時に成り立つことが多い。④ 技法を答えるだけで終わらせず、「**その技法で何が強調されたか**」を必ず言葉にする習慣をつけること。記述問題はここが得点源になる。

四 「見えないだけ」の読解 （50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 3点	**ア**	第一連は、上を見上げた場所と、下へ深くもぐった場所とが対にして並べられている。**上と下**という正反対の方向を一組にすることで、世界が縦にも広がっていくことが示される。
(2) 3点	**対句**	「対句法」も可。「比喩」「反復」は不可。**似た組み立ての行を向かい合わせに並べる**のが対句。この詩では連の中でくり返し用いられ、ゆったりとしたリズムを生んでいる。
(3) 3点	**ア**	教科書の詩で何度も出てくるのは「もっと」。「もっと」は、今ここにあるものより**さらに先・さらに大きいもの**を指し示す語。これがくり返されることで、読者の視線が次々に外へ押し出されていく。
(4) 4点	**イ**	反復の効果を問う問題。「もっと」が重なるたびに世界の奥に新しい世界が見つかり、**世界が限りなく広がっていく**印象になる。ア「退屈」・ウ「あせり」・エ「さびしさ」は、この詩の明るい調子と合わないので誤り。
(5) 3点	**擬人法**	「擬人化」も可。「比喩」だけでは不十分（1点）。人でないものが人のようにふるまう表現であることを押さえる。
(6) 6点	**（例）まだ見えない世界が、生き物のように確かに存在しているという感じ。（32字）**	**満点の条件**…「**生き物（人）のように生きている・息づいている**」（3点）＋「**確かに存在している・ちゃんとある**」（3点）の二点がそろっていること。 **部分点**…どちらか一方だけなら3点。「きれいな感じ」「すごい感じ」など**印象の言葉だけ**のものは1点。技法の名前を書いただけ（「擬人法の感じ」）は0点。 「〜という感じ。」の形になっていないものは－1点。二十五〜三十五字から外れたら－1点。

(7) 4 点	ア	「あんなに」という指示の言葉と「確かに」という断定が重なることで、話し手が**見えないものの存在を疑っていない**ことがわかる。この確信が、詩全体を**希望の調子**にしている。イ「疑い」は正反対。

四　「見えないだけ」の読解（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(8) 4 点	**イ**	題名の読み取り。「だけ」は「**それ以外は何も問題がない**」と限定する助詞。つまり「無いのではなく、ただ今は目に映っていないだけ」という意味になる。ア・ウのように**否定の意味に取ると、題名の働きが真逆になる。**
(9) 3 点	**イ**	構成の読み取り。視点は**身近な場所 → 空・海 → その向こう → これから来る時間**へと、場所から時間へ、内から外へと移り広がっていく。最後にその広がりが「見えないだけ」と結ばれる。
(10) 7 点	**（例）今は見えなくても、すばらしい世界は確かにあると信じて生きようとする希望。(36字)**	**満点の条件**…①「**今は見えない／目に映らない**」（２点）＋②「**すばらしいもの・世界が確かに存在する**」（３点）＋③「**それを信じる・希望をもって生きる**」（２点）の三要素。 **部分点**…②だけなら３点。②＋①で５点。③が欠けているものは最大５点（主題は「希望」にまで届かせたい）。 「空と海の詩である」など**内容の要約だけ**で主題になっていないものは２点。二十五～四十字から外れたら－１点。
(11) 5 点	**（例）「もっと」を少し強めて読み、最後の一行はゆっくり静かに読む。世界が広がっていく感じと、確かな希望を伝えたいからだ。(57字)**	自由記述。固定の正解はなく、**ルーブリック**で採点する。 **５点**…具体的な**読み方の工夫**（強弱・速さ・間の取り方・声の高さなど）が書かれ、その**理由**が**この詩の表現や主題**（反復・対句・広がり・希望・確信など）と結びついている。 **３点**…工夫と理由の両方があるが、理由が「そのほうがきれいだから」など詩の内容に結びついていない。 **２点**…工夫だけ、または理由だけ。 **０点**…「大きな声で読む」など**音読一般の注意**にとどまり、この詩に即していない。 四十～六十字から外れたら－１点。
(12) 5 点	**ア・ウ**	ア…星が「笑っている」と人の動作で表しているので○。ウ…空が「泣いている」と人の動作で表しているので○。 イ…「ような」を使った**直喩**なので×。エ…「～は～だ」の形でたとえた**隠喩**なので×。オ…鳥が飛ぶのは事実をそのまま述べた文なので×。 **ア・ウの二つがそろって５点**（**完答**）。一つでも足りない、または余分な記号があれば０点。

思考・判断・表現　合計　50点　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（８つ)】

1. この詩は**口語自由詩**。音数の決まりはなく、句点（。）もほとんど使われない。「定型詩」としないこと。
2. 詩の区切りは「段落」ではなく「**連**」。用語を正しく使い分ける。
3. 対になる行が並ぶ組み立ては**対句**、同じ語が何度も出るのは**反復**。**両方が同時に働いている**ことに気づくのがこの詩の要。
4. ものが人のようにふるまう表現は**擬人法**。これにより、まだ見えない世界が「**今まさに生きて存在している**」ものとして感じられる。
5. 視点は**上下へ、向こうへ、そして未来へ**と広がる。**場所の広がりが時間の広がりへ変わる**ところが山場。
6. 題名の「**だけ**」は**打ち消しではなく限定**。「無い」のではなく「**まだ目に映っていない**」。ここを逆に読むと全問崩れる。
7. 確信を示す言い方（「あんなに」「確かに」）が、詩の調子を**さびしさではなく希望**にしている。暗い方向に解釈しないこと。
8. 記述は**技法の名前を書くだけでは０点**。「その技法によって**何がどう感じられるか**」まで書き、「**〜という感じ**。」「**〜ということ**。」の形で結ぶ。